

京の若手経営者 変革語る

山科で催し 販売方法や職場づくり



トークイベントで語り合う(右から)畑さん、渡辺さん、矢野さん＝京都市山科区・洛和会音羽リハビリテーション病院

京都企業の経営に携わる若手リーダー3人のトークイベント「時をかける 令和時代の新たな変革リーダー」が、京都市山科区の洛和会音羽リハビリテーション病院で開かれた。歴史の長い家業を

継ぐ際の葛藤や、新しい時代に対応する必要性などを語り合った。いずれも1981年生まれで、医療関連な生まれで、医療機関などを運営する洛和会ヘルスケアシステム(京都市山科区)の矢野裕典理事長と日本茶店立つ資格があるのか

「一保堂茶舗」(中区)の渡辺正二社長、香老舗「松栄堂」(同)の畑元章専務取締役が登壇した。

老舗企業を次ぐ重庄について、渡辺さんは一時は「従業員の上に立つ資格があるのか」と悩んだものの、大学卒業後に他分野で就職し、「少しずつ自信を付けていった」と打ち明けた。畑さんは伝統文化を担う企業として

「変わらないために変わら続ける」と強調し、和の香りを守りつつ、商品アピールや販売方法を工夫しているとした。

矢野さんは人手確保が難しい医療介護分野において、「いい職員がいればいい医療などが提供できる。働きたいと思ってもらえる職場づくりを目指す」と意欲を語った。

トークイベントは同病院の新棟開設記念として催された。

(鈴木雅人)